

FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌
Vol.01



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

『ふれあい』の名に ふさわしい交流の場に

当館は昭和62年11月の開館以降、川の生き物や、私たちが川から受ける恩恵、その活用方法などをご紹介する展示アイテムを中心に、多くのお客様に親しまれてまいりました。

平成26年3月、生物多様性や環境保全など、私たちが直面している、これからの地球環境問題を把握し解決するための第一歩として、まずは身近な環境の変化を知ることが不可欠だという観点から、新たに「川・生命・人のつながり」をコンセプトに、リニューアルオープンいたしました。このコンセプトを具体化するキーワードが、さまざまな生命との『ふれあい』です。

様々な年代のお客様が、生き物や展示、さらには多くの人と直接ふれあうことで、驚きや喜びを感じていただきたいと思います。そのため、私たちは展示アイテムの更新や季節感のあるイベント、体験プログラムなどを通して、『いつ来ても変化があり、楽しく交流ができる』ための活動を推進し、何度でも気軽に行きたくなる魅力あふれる施設であり続けるために、スタッフ一同、力を注いでまいります。

相模川ふれあい科学館 アquariumさがみはら
館長 坂野浩一



Contents

リニューアルオープン記念式典	3
施設概要	4
常設展示紹介 エントランス	5
川ゾーン・生命ゾーン	6
人ゾーン・屋外広場	8
ご来館者アンケート	10
平成26年度の活動報告	11
特別企画展 世界No.1 昆虫展	12
トゲトゲ展	14
甲殻エビカニ隊	16
魚道展	18
ふれあいトピックス	
ものづくりワークショップ	19
マンスリー水槽・ミニ企画展示	20
餌づけ体験・ふれあいワゴン、ふれあい田んぼ	22
学校連携	
フィールドワーク、職業体験、インターン、教員研修	24
地域連携 出張水槽・絵画展など	25
スタッフ紹介	26
指定管理者紹介	27

● リニューアルオープン記念式典 ●

平成26年3月26日(水)



新しくなった ふれあい科学館をお披露目

春休み初日となる3月26日(水) 午前9時より、多数のご来賓の皆様にご列席を賜り、盛大に記念式典が執り行われました。

相模原市長加山俊夫様をはじめとするご来賓の皆様よりご祝辞を頂戴した後、田名鼓笛隊の皆さんによる素敵な演奏をバックにテープカット。その後、朝早くからお待ちいただいていたお客様もご一緒に、館内をご見学頂きました。

リニューアル以前より弊施設のメイン水槽である「流れのアクアリウム」をはじめとする生体展示はもちろん、新しく導入した「お魚ぬりえ」などの体験型常設展示も大人気で、すぐに長蛇の列となりました。毎日開催する「ものづくりワークショップ」コーナーでは「水辺のイースターエッグ」が開催され、お子様が楽しそうに卵型の発泡スチロールに好きな色を塗っている姿が印象的でした。



施設概要



コンセプト

川・生命・人とのつながり

相模原市中央区水郷田名は、江戸時代後半には五穀豊穡や雨乞いの神として信仰を集めた大山阿夫利神社（神奈川県伊勢原市）への参詣者が通った大山道の宿場町として栄え、現在でも相模川の景勝地として多くの人が訪れます。

ここに相模原市が昭和56年度に策定した「相模川計画」に基づき、相模川の自然に親しみ、自然を守り育てる心を育み、市民文化の向上に寄与するための目的で、昭和62年「相模原市立相模川ふれあい科学館」は設立されました。

施設内の親水公園には、豊かな相模川の水を利用し

た水路や水盤が広がり、建物はまるで水上に浮かんでいるようなデザインで、かながわの建築物100選のひとつに選ばれています。

「地域性（親しむ）」、「科学性（学ぶ）」、「娯楽性（楽しむ）」の3つの基本方針のもと、「川・生命・人とのつながり」が凝縮して展開される、環境情報施設となっています。

また、事業ミッションとして、豊かな自然と多様な都市機能が共生する都市を実現するための「相模原市水とみどりの基本計画」（平成22年発表）に基づき、施設の管理運営を行っています。

施設概要		○敷地面積 15,722㎡	
内訳・項目	名称	面積	備考
建物 1,711㎡	展示室	569㎡	
	多目的室	174㎡	倉庫を含む
	ホール	175㎡	
	便所	44㎡	
	事務室	85㎡	
	飼育室	95㎡	飼育準備室、倉庫を含む
外構 9,868㎡	その他	569㎡	機械室、廊下、授乳室、更衣室など
	親水施設	2,110㎡	池、せせらぎ、滝
	広場	1,950㎡	
	緑地帯	5,808㎡	散策路、休憩広場を含む
その他 4,143㎡	駐車・駐輪場	3,215㎡	駐車台数（バス5台、乗用車95台、身障者用2台）
	屋外便所	70㎡	
	屋外倉庫・作業場等	858㎡	



エントランス

アユがお出迎え



お客様が最初に目にする水槽は、エントランス正面に設置されたアユ水槽です。かつて「鮎河」とも呼ばれ、全国有数のアユ漁獲高を誇る相模川、そのシンボルフィッシュであるアユを通年展示しています。生体展示だけでなく、アユの姿は館内のいたるところにデザインされています。エントランスを抜けて展示ゾーンへ向かう「川へのいざない」では、プロジェクターで投影されたアユの魚群が、お客様を相模川の世界へ誘導します。

トピックス水槽

エントランスでは、話題になっているテーマや時期に合わせた生体展示も行います。

例えば6月～7月には、国際自然保護連合（IUCN）がニホンウナギを絶滅危惧種に指定したことをテーマに水槽を展示し、生物多様性や自然保護に対する啓蒙活動に注力しました。



リニューアル初の企画展

記念すべきリニューアルオープン最初の特別企画展は、シンボルフィッシュであるアユをテーマとした内容で、アユの生態や漁法、調理方法など、相模川と共に暮らす私たちとアユとの関係を、歴史をふまえて多方面からご紹介しました。

アユ

アユは年魚とも呼ばれるように、1年で寿命を迎える魚です。ふ化した仔魚は川を下り、稚魚期を海で生活します。春になると川を上り、なわばりを作って生活します。秋になり繁殖期を迎えると下流域で産卵し、1年間という短い一生を終えます。自然界では、多くのアユは秋に産卵すると死んでしま

うため、施設では水槽の照明を点灯して成熟産卵を抑えることで翌年まで延命させ、いつでもアユをご覧いただくことができるようにしています。同様にこの方法は、アユの養殖でも利用され、養殖池に照明をつけ夕方から夜にかけて明るくし、天然アユがいなくなった晩秋から冬にかけて出荷することがあります。この方法を電照養魚と呼んでいます。



川ゾーン

さまざまな生き物との出会い



施設では、相模川に生息する淡水魚のうち約50種を中心に、相模湾の海水魚や爬虫類、両生類、甲殻類など100種(約7,000点)以上の生き物を飼育展示しています。飼育水は相模川本流より導かれた農業用水路より得ており、総飼育水量は約100トンです。



流れのアクアリウム



相模川の水源地から河口までの全長113kmを、長さ40mの巨大水槽で表現しています。上流域、ダム湖、中流域、下流域、河口域で変化する生体や環境が観察できます。水上にも視野を広げ、川原で見られる7種類の野鳥の模型もレイアウトしています。

川的环境



壁面に配置されたトライビジョンでは、ハンドルを回す動作によって内容が変化し、子供たちが体を動かしながらイラストを見ることで、より興味を抱く展示装置となっています。



ヤマメ

北海道から九州までの、主に川の上流などの冷水域に生息します。ヤマメの一部は、海にくだって回遊し、産卵時に再び川をのぼる降海型となる個体があり、それらはサクラマスと呼ばれます。サクラマスはヤマメより大型となり体の模様も変化しますが、全く同じ魚種です。



ハス

コイ科魚類としては珍しい完全な肉食性で、小魚を積極的に捕食します。独特の形状に発達した口も、くわえた魚を逃がさないための適応だと考えられています。現在では相模川水系でも多く見られますが、もともとは琵琶湖水系で自然分布していました。

生命ゾーン

観て考えて学べる



タナゴ水槽



小川や池、ワンド(川の入江)にすむタナゴ類を13種以上展示しています。国の天然記念物に指定されているミヤコタナゴをはじめ、希少種の自家繁殖も行なっています。

坂道お魚観察水槽



成長段階や摂餌活動のために遡上する魚の通り道である「魚道」を再現したデザインです。ドーナツ型で、全方位から生物の行動が観察できます。

両生類水槽



世界最大の両生類オオサンショウウオをはじめ、相模川水系に生息のサンショウウオ類やモリアオガエル、アズマヒキガエルを展示しています。

お魚ぬりえ



タッチパネルで魚に色を塗りながら、生き物の体色や形について楽しみながら学習できます。完成した作品が大画面モニターの水槽で自由に泳ぎ始めます。



ミヤコタナゴ

1974年に国の天然記念物に指定された日本固有種で、関東地方の一部に生息しています。湧水に続く水路や水田耕作地に生息するため、水田の整備事業などの環境変化により生息地が急激に消滅したことが減少の大きな要因で、現在でも研究機関等で保護・繁殖活動が行われています。



オオサンショウウオ

1952年に特別天然記念物に指定された日本固有種で、岐阜県以西の本州と九州、四国の一部に生息しています。最大で全長1,500mm近くになる世界最大の両生類で、飼育下では50年以上の生存も確認されています。最近では、移入種のチュウゴクオオサンショウウオとの交雑種が問題となっています。

人ゾーン

おさかなとTouch!



相模川をより身近に感じるため直接生体とふれあえたり、クイズを通して私たちの生活に関係する環境問題を学んだりすることのできる、リニューアルで新設されたゾーンです。

湧水と小川のアquarium



相模川の湧水から始まる支流の水辺を、屋外に再現しています。水槽は開放式となっており、相模川産の魚たちへの水中給餌(おさかなトレーナーになろう)をすることで、魚とのふれあい体験が可能となっています。傍らには「タッチング水槽」があり、アメリカザリガニなどに触れることができます。生体とのふれあい方や体の仕組みを、親子で考える情操教育の場としてご利用いただけます。



ウグイ

沖縄地方を除く日本全国に分布し、河川の上流域から下流域に幅広く生息しています。群れを組んで泳ぎ回る習性があるため、橋の上などから魚影を確認することができます。食性は雑食で水生昆虫やコケ、小さな魚など何でも捕食します。餌づけ体験「おさかなトレーナーになろう」では、集団で餌に向かってくるダイナミックな捕食シーンをご体感いただけます。

小川の実験・観察テーブル



実体顕微鏡などを使って、展示中の生き物を詳しく観察できます。メダカやカエルの卵発生や、ザリガニの体色変化実験などテーマを変えて、生き物の不思議にふれることができます。

相模川 水のネットワーク



相模川を代表する鳥や魚たちが案内役となって、川と生き物・人がどのようなつながりを持っているのか、クイズ形式で学ぶことができます。自然と人が共生する社会を目指すためのヒントがたくさん盛り込まれています。



アメリカザリガニ

ミシシッピ川流域を中心としたアメリカ合衆国南部が原産地で、日本には外来種として移入分布しています。「タッチング水槽」にいるアメリカザリガニを、最初は怖くてさわれなかったお子さんが、何度も挑戦してさわれるようになった、という嬉しいご感想を多数いただいています。また、当館では外来種問題の啓蒙活動も行っています。

屋外広場

水と緑にふれあう憩いの場



屋外の公園部分には、様々なイベントができる公園や、せせらぎや滝のある親水施設をはじめ木陰で休憩ができる緑地帯など、相模川の水と豊かな緑に囲まれた環境です。

アルキメデスのポンプ



ハンドルを回すと、らせん状のホースを伝わり水がくみ上げられるポンプです。ギリシャ時代の科学者、アルキメデスが発明したスクリュウ式ポンプを、レオナルド・ダ・ヴィンチが改良したものです。

科学館まつり

気候の良い春や秋の週末、「科学館まつり」を開催しています。模擬店や、ミニSL試乗会をはじめ、皆様にお楽しみいただけるイベントを行っています。また、各種イベント開催のご相談も承っています。



ふれあい田んぼ



水田はイネを育てるだけでなく、雨水を一時的に貯めるダム役割や、水蒸気を発散して気温の上昇を抑える役割、さらにはさまざまな生き物を育てる役割も担っています。屋外のふれあい田んぼでは、みなさんと一緒に田植え～収穫までを実体験したり、水田の生き物観察会を開催したりすることで、田んぼの働きを肌で感じることができます。

長期休暇イベント

長期休暇期間には、期間限定で特別企画展との連動イベントなどを開催しています。

今年のゴールデンウィークは、新江ノ島水族館の協力でアオウミガメの子どもの出張展示、夏休みには相模原市立博物館様のご協力を得て自然豊かな環境を活用した昆虫観察ツアーを実施したりと、お客様のニーズに合わせた魅力ある内容で、お楽しみいただきました。



平成26年9月 ご来館者アンケートを実施！

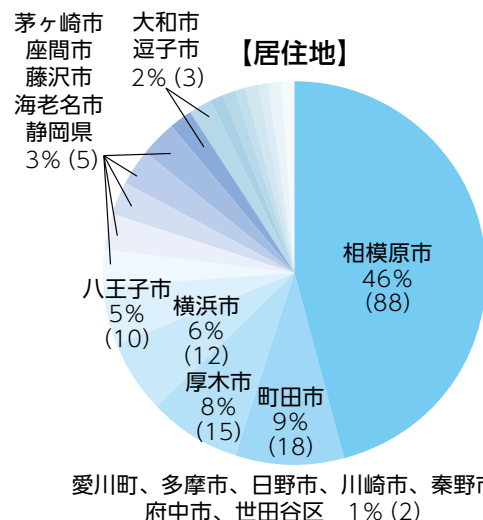


平成26年9月17日～23日の7日間、リニューアルオープンから半年経過し、皆様のご感想を伺いさらなる施設の魅力向上のため、ご来館者アンケートを実施しました。合計で195名様にご協力いただき、非常に高い評価ならびに、今後の施設運営において貴重なご意見を多数頂戴することができました。

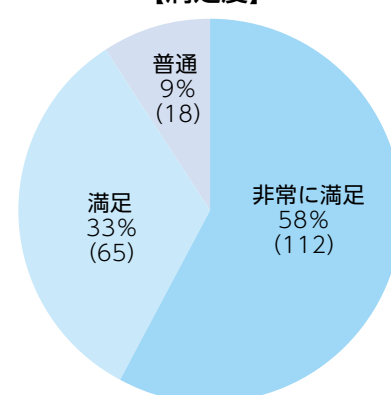
回答者特性

居住地

約半数（46%）が相模原市内に在住で、町田市、厚木市、横浜市、八王子市など近郊の周辺エリアからのご来館が半数（54%）でした。シルバーウィーク期間でもあり、静岡県など遠方からお越しのお客様もいらっしゃいました。



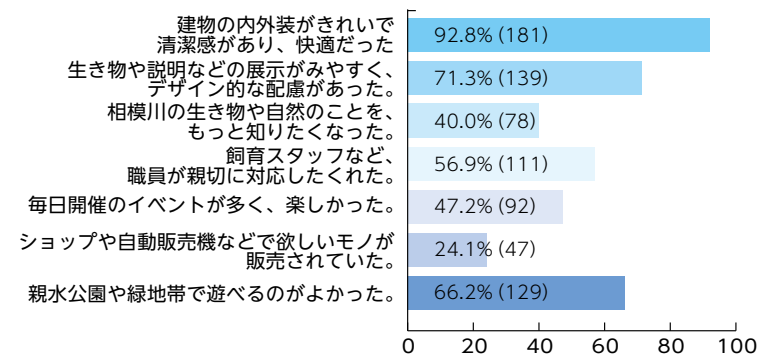
【満足度】



ご来館の満足度と感想

施設の満足度を5段階評価で記述していただきました。「非常に満足」（58%）と「満足」（33%）の合計が91%と、高評価を頂戴しました。特に、リニューアルにより内外装が新しく明るくなったこと、展示の見やすさ、親水公園で遊ぶことなどが高評価でした。自然光をふんだんに取り入れ、天井には明るいLED照明を設置するなど環境にも配慮したデザインのおかげで、小さなお子様にも安心してご見学いただける雰囲気づくりが皆様に喜ばれています。また、生物とふれあえる機会を増やして欲しい等、ご要望もいただくことができました。

【ご来館の感想・印象】



人気の展示

生体展示では屋外水槽（「タッチング水槽」、「湧水と小川のアクアリウム」）をはじめ、相模川の上流から河口までの113kmを40mの水槽で模した「流れのアクアリウム」が高評価でした。その他、タッチパネルで自由に色をぬることができる「お魚ぬりえ」、毎日開催している「ものづくりワークショップ」、生体に直接さわることのできる「ふれあいワゴン」など、ご来館者が体験できる展示やイベントが高い評価をいただきました。

団体様のご利用

相模原市内の小学校や幼稚園を中心に、400以上の団体様がご来館されました。学校団体様向けの館内ツアーやワークショップ（どちらも有料）など、学習効果の高いプログラムもご用意いたしておりますので、お気軽にお問い合わせください。



年間パスポートも大好評

3回分の入館料で、1年間なんでも入館ができるお得な年間パスポートも、多くの皆様にご好評いただき、3,500人以上の皆様にご購入いただきました。



平成26年度の活動報告



リニューアルオープンで新しく、キレイになった「相模川ふれあい科学館」。
もうひとつの大きなテーマは、いつ来ても変化のある、楽しい施設であること。そのため、水郷田名観光協会様に模擬店を出店していただき実施する『科学館まつり』をはじめ、相模原市観光協会様の主催による『アクアリウムさがみはらイルミネーション』など、多くの地元の皆様のご協力により、様々なイベントや特別企画展などを開催させていただくことができました。
その主な活動につきまして、これからご紹介いたします。



特別企画展 世界No.1 昆虫展

7/15 (火) ~ 8/31 (日)



地球は「昆虫の惑星」です。

地球上で最も繁栄している生き物は「昆虫」と断言できる証拠に、私たち人類を含む哺乳類がおよそ5,400種くらいなのに対して、昆虫は100万種以上が生息しているといわれています。さらに未分類や未発見の昆虫を考えると途方もない種類が生息していると考えられているのです。

「世界No.1 昆虫展」では、そんな多種多様な昆虫の中から、世界各地に生息し特徴的な生態や外見で「世界で1番」と呼ばれている昆虫たちにスポットを当て、約30種類の生体展示を行いました。難しい学術的な話はできるだけ簡略化して、お子様に昆虫や身近な自然に興味を持っていただけるようなイベントも多数、開催しました。



企画者 コメント Comment

展示飼育員 嶋津雄一郎



「昔から慣れ親しんだ学習ノートの表紙から昆虫が消える。」

こんなニュースが最近、報道されていました。保護者や先生、児童から不評だと

いう意見に配慮したとのことですが、賛否両論が各地で巻き起こっているようです。ちなみに私の場合は、小学生の時に表紙の昆虫を見ては「いつか本物を見たい!」と、新しいノートを買うたびにワクワクしていました。しかし現在では、多種多様な考え方や価値観の違いを尊重し、「昆虫嫌い」の方のご意見にも配慮が必要になった、ということかもしれません。

そんなご時世の中、開催した「世界No.1 昆虫展」ですが、企画者として好きか嫌いかの判断をする前に、まずは『昆虫に興味をもっていただくこと』にこだわりました。

生体展示コーナーでは「世界で最大のカブトムシ」と呼ばれているヘラクレスオオカブトや「世界で最も美しい糸」を紡ぎだし、かつて相模原でも盛んに行われていたカイコ（養蚕）などが高い人気を集めました。豊かな自然が残る相模原でも、かつては身近にいたカブトムシやクワガタムシにお目にかかれなくなっていることも、実は多いのです。そしてカイコをきっかけに、お子さんに昔の様子をご家族でお話される光景を多数お見かけしました。



また生体展示コーナー以外にも家族連れで楽しめるキッズコーナーを設置し、例えば「カイコの繭に触ろう」「カブトムシタッチング」などのふれあい体験では、昆虫に初めて接する人でも、極力ハードルを低くして楽しめる配慮をしました。実際に「初めて昆虫にさわることができた」「昆虫に興味を持った」といううれしいご感想を多数いただき、昆虫や身近な環境に興味を持つ「きっかけ作り」ができた、と手応えを感じました。これからも相模原市民の方々に親しまれ、ワクワクしていただけるような特別企画展を開催したいと思います。



イベント レポート

夏休み期間の開催でもあり、夏休みの宿題や自由研究のサポート、家族連れや友達同士で思い出作りが出来るようなイベントを多数、開催しました。相模原市立博物館様や環境教育分野でご活躍の皆様にもご協力いただき、ただ「面白い」だけでなく、身近な自然に興味を持てるような「五感」を使ったプログラムを心がけました。

★「ミヤマ☆仮面参上!」～体を動かす、頭を使う～ 8/1

市内在住の元プロレスラーの垣原賢人氏が演じる昆虫界のヒーロー「ミヤマ☆仮面」さんにご出演いただき、相棒のクワガタ忍者と共にプロレスのトレーニング方式と昆虫の動きを取り入れた「昆虫体操」や、外来種問題や身近な昆虫を取り入れた「昆虫クイズ」など、全員参加型のイベントで会場を盛り上げました。

★「昆虫観察ツアー」～見る、触る、感じる～ 8/1、8/8

相模原市立博物館の守屋博文学芸員を講師に、昆虫観察ツアーを開催しました。科学館には、雑木林、草原、水田などがあり、四季折々の様々な生き物を観察する事ができます。網を持ったお子さん以上に、保護者の方が盛り上がっていたのが印象的でした。

★「昆虫ペーパークラフト」～創作する、道具の使い方を学ぶ～ 7/19、8/24

市内在住の造形作家、中島波樹氏を講師に、ペーパークラフト講座を開催しました。大人気のカブトムシやクワガタムシのペーパークラフトで、あっという間に満員になってしまう程、大人気でした。

★その他のイベント

ウミホタル発光実験／ネムリユスリカ蘇生実験／昆虫飼育講座／クマムシ講座 など



中島波樹氏

特別企画展
トゲトゲ展
 ぼくたちが
 とんがっている理由
 9/13(土)～11/3(月・祝)



キーワードは、「トゲトゲ」。

地球上で暮らす300万種以上の生物は様々なかたちをし、それぞれ多様な役割を担っています。この特別企画展では、トゲを持つ生物をきっかけにして、かたちから生物の不思議をお伝えし、ご興味を持っていただくことを目的としました。

昆虫、両生類、爬虫類、魚類、甲殻類、哺乳類など、あらゆる種類の生体や標本の展示のみならず、大人気のヨツユビハリネズミをはじめ、いろいろなトゲトゲ生物とふれあえるイベントを毎日開催したり、トゲやハリを模した突起物のあるカーペットの上を歩く「トゲトゲウォーク」などのハンズオンコーナーで、子供から大人までお楽しみいただきました。



企画者
 コメント
 Comment

展示飼育員 竹本淳史



“綺麗なものにはトゲがある”と言いますが、私にとっては“綺麗なもの”というよりも、“心惹かれるもの”にあふれた「トゲトゲ展」でした。

生物のかたちは無限に存在していますが、トゲを持つ生物だけに注目してみても、その機能や使い方は様々で、非常に奥が深く、それをヒントにして人間の生活でも役立っているものも多々あります。

今回の「トゲトゲ展」では、そんな心惹かれるトゲトゲ動植物を世界中から集めてきました。

愛らしい姿とトゲトゲのギャップが人気の、ヨツユビハリネズミ。期間中は毎日ふれあいタイムがあり、この企画展の一番の功労者です。飼育当初から考えると、ハリネズミはもちろんですが飼育する私たちも、いろいろと勉強になり、成長することができたと感じています。

植物では、多肉植物ブームの影響で最近よく見かけるサボテンをはじめ、トゲで捕らえた獲物を逃がさないハエトリソウや、かぎ状のトゲで動物にくっついて生息範囲を広げるオナモミの仲間などで、トゲの様々な役割をご紹介しました。

動物では、トゲトゲの尻尾で身を守るトカゲの仲間トゲオアガマ、危険を感じると尖ったろっ骨が飛び出してくるイベリアトゲイモリ、360度トゲだらけのイガグリガニなど、実際にトゲを持つ生体を展示しました。お客様の中には、「水族館で哺乳類や爬虫類が見られるの?」と驚かれる方もいらっしゃいましたが、ご覧になるとその姿の面白さに魅了されてよかったという、うれしいご感想を多数いただきました。

私自身、初めて担当した特別企画展が多くの皆様のご協力により無事に終了を迎えられたときは、とても感慨深いものがありました。

最後に、実は私が担当者としていちばんうれしかったことは、昔からひそかに温めてきていた“ツノゼミの世界”を今回ご紹介できたこと！なのでした。



ツノゼミは、日本や世界中に3,000種余りが知られる昆虫の仲間です。大きさは数mmから3cmほどしかなく、そのかたちは「なんでそんなの!?!」という驚きの宝庫です。

植物のトゲにしか見えないかたち。毒を持つハチや、攻撃性の高いアリに似せたかたち。何かに擬態しているつものようだけれど、なんだかよくわからないかたち、など様々ですが、

ツノゼミの世界



オオハタザオツノゼミ



アリカツギツノゼミ



ヨツコブツノゼミ

そのどれもがとても魅力的で、必ず虜になってしまいますよ！

特別企画展 甲殻 エビカニ隊

11/20 (火) ~ 1/18 (日)



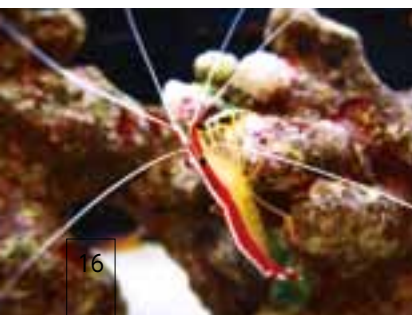
日本人は「エビ・カニ」が好き！

有名なタレントさんの「エビフリヤ〜」発言で、一躍有名になった名古屋名物エビフライをはじめ、エビやカニを食材にした名物料理は、日本各地にたくさんあります。

新聞の広告などで、たくさんの「カニ食べ放題ツアー」の案内を見かけると、「ああ、今年も冬がやって来たな！」と実感します。

冬が旬の食材と定着しているのは、ほとんどが海産のエビ・カニ類ですが、相模川流域では昔から、淡水性のテナガエビやサワガニなど、貴重なタンパク源として重宝されているのです。

そんな馴染み深い、甲殻類の代表格であるエビやカニの魅力を、存分にご紹介しました。



企画者 コメント Comment

展示飼育員 嶋津雄一郎



淡水、海水を問わず、食材としてはもちろん、採集や飼育対象としても人気の高い、エビやカニをテーマとした特別企画展「甲殻エビカニ隊」。とても親しみ深い種だからこそ、できる限りいろいろな生体をご紹介することに専念しました。相模川にも生息するサワガニや、相模湾でも見られるイソギンチャクを背負ったケスジヤドカリなどの身近な生体から、世界最大のヤドカリであるヤシガニなど、世界各地に生息する甲殻類やその仲間の生体をご紹介しました。

さらに、小さなお子様たちには、体をコマにしてサイコロの出目のとおりに進む「エビ・カニ生態スゴロク」や、「アメリカザリガニの外来種問題」を漫画でご紹介するパネルなどのキッズコーナーで、楽しみながらエビやカニについて学んでいただきました。

もちろん、特別企画展の連動イベントも開催しました。私たちが普段食べているチリメンジャコの中から、エビやカニの子供を探す「チリモンを探せ!」は毎週末開催して大人気でした。さらに、夏休みに講師としてお招きした市内在住の造形作家、中島波樹氏にお願いした「エビカニペーパークラフト」。中島氏もはじめての挑戦で、いろいろとご苦労をおかけしましたが、定員以上の皆様にご参加いただき、皆様とても満足されていたのが印象的でした。

本音をいうと、企画者としては生体コーナーよりも、キッズコーナーやイベントに人が集中したことはちょっと「悔しい!」ですが、多くのお客様にお楽しみいただき、たくさんの笑顔に出会えたことが、何よりも嬉しかったです。これぞ、企画者の醍醐味だと痛感しました。



オオグソクムシとのふれあい



毎日実施している、生体に直接さわることでできる「ふれあいワゴン」。特別企画展の開催中は、できるだけ展示生体や、テーマに関連する種類の生体を登場させるように配慮しています。「甲殻エビカニ隊」では、ポスターにも登場しているヤシガニだけでなく、深海ブームで人気のオオグソクムシも登場しました。海にすむ甲殻類の仲間の中では日本最大種で、まさに大型のダンゴムシ。集まった皆さんは、最初はおっかなびっくりでしたが、興味津々でバケツをのぞきこんで背中にさわると大喜び! 生体に直接ふれることでできる機会が少なくなっている昨今、実際に体験することで得られる感動は決して消えません。ぜひ、ご参加ください。

特別企画展

魚道展

川をつなぐ魚のみち

1/27 (火) ~ 3/1 (日)



魚道ワールドへ、ようこそ！

川で暮らす生物たちの中には、海や川を行き来する仲間や、上流から河口の間を移動する仲間がたくさんいます。

しかし現在の河川は、治水や利水を目的にダムや堰などが作られ、それが生き物にとっては「障害物」となってしまうことがあります。そのため、堰等には、生き物が自由に行き来できる魚の通り道、いわゆる「魚道」がつけられています。

この、常設展示でもご紹介している「魚道」の魅力に迫る特別企画展です。



企画者
コメント
Comment

展示飼育員 真田誠至



私が魚道に出会ったのは、もう20年前になります。魚道を設置することは、専門家でもまだ賛否両論があるのですが、人と生物がともに川を利用するための解決策。今でもその種類や設置方法などの研究が続いていて、そのことをぜひ多くの皆様に知っていただきたいという思いで企画しました。

自分が魚になったつもりで挑戦する「魚道迷路」など、試行錯誤を重ねてコンテンツを考えましたが、一番のおすすめは「相模川ものさし」です。全長113kmの相模川にちなんで、全長113cmのものさし(メジャー)は、河口を起点として水源までにどのような河川横断構造物があるのか、一目瞭然で分かります。相模川フリークの皆様には、ぜひお持ちいただきたい、完全オリジナルアイテムです。

ふれあい Topics01

毎日開催
ものづくりワークショップ

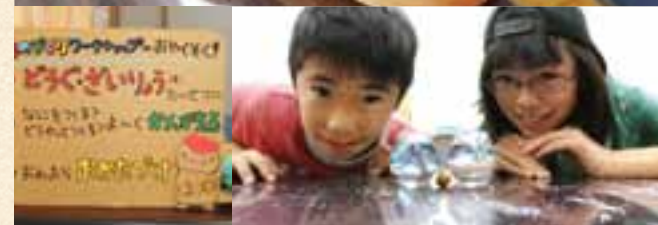
リピーターもぞくぞく

川や海にある材料や、身近なアイテムを利用して、いろいろな工作をしています。また次に来たときには新しいプログラムに参加していただきたい、という思いで毎月更新しています。せっかくなのでたくさんの魚や生き物に出会えたのだから、「見る」だけでなく、「描いて」みたり、「塗って」みたり、「かたちをつくって」みたりすることで、新しい発見をすることもありますし、誰にでもオリジナリティあふれる作品ができあがっちゃいます。もしかすると、自分でも気がついていない才能に、めぐりあえるかも？

「ものづくりワークショップ」はほとんど毎日開催中なので、ぜひぜひご参加ください！

もうすぐ参加者も1万人に到達します。リピーターの常連さんも、いらっやいますよ～！

(体験学習 齊藤麻奈美)



【実施プログラム】

プログラム名	実施日	参加人数	参加費
水辺のイースター	春休み、4月の土日祝日	2,098名	有料100円
自分だけのアユづくり	4月～5月の平日	356名	無料
コイのぼりをつくろう！	GW	1,058名	有料100円
ストーンアート	5月の土日祝日	729名	有料100円
プカプカメ	6月～7月の平日	509名	無料
エコエコ消臭剤でつくるミニ水槽	6月～7月の土日祝日	1,038名	有料500円
超リアル！紙でつくるカブトムシ・クワガタムシ	7月19日、8月24日	87名	有料300円
こねこね手づくり おさかな石けん	7月20日～24日、26日～31日	1,355名	有料300円
水辺の風鈴づくり	8月11日～23日、25日～31日	1,175名	有料300円
ゆらゆら舟	9月～10月の平日	319名	無料
水辺のキャンドル	9月の土日祝日	446名	有料500円
キラキラひかる ふわふわランタン	10月の土日祝日	502名	有料500円

※平成26年10月までに実施したプログラム例です。

ふれあい Topics02

常設展示
マンスリー水槽

「マンスリー水槽」はその名の通り、月替わりで季節のイベントや行事に合わせてテーマを決め、そのテーマにあう生物をご紹介します、常設展示水槽です。



オニテナガエビ

展示期間は約1ヶ月間。展示を変更すると同時に環境変化による影響がないか等、新しい飼育個体の体調管理に気を配りつつ、翌月や翌々月の展示変更に向けた準備が始まります。実は、展示したい生物がいても、なかなか希望の種や大きさの個体が入手できないなどで、企画を練り直したことも多々あります(涙)。また、入手から展示までの期間が短いため、生物の健康状態を整えることにも苦心しています。さらに、ようやく展示にこぎつけた生物が1ヶ月で変わってしまうことは、寂しくもあります。

しかあし、「相模川」という科学館の永遠のテーマ縛りから(少しだけ)外れて、飼育員が日頃温めている、魅惑の生物ネタを投入できる、自由度の高さも魅力なのです。

これからも、お客様の好奇心をくすぐる生物たちを、毎月紹介していきます！

(展示飼育員 田村裕子)

実施したテーマと生物 (平成26年11月まで)

3・4月【さくら色の金魚たち】

生物種：サクラアズマニシキ、サクラリュウキン、サクラニシキ

5月【鯉のぼりみたい? ～ニシキゴイの先祖～】

生物種：ニシキゴイ(浅葱、カガミゴイ)

6月【アマゾンの梅雨は雨なし??】

生物種：ピラニア、コロソマ

7月【夏の宵には涼を ～ほのかな光に酔いしれて～】

生物種：アフリカンランプアイ、ネオンテトラ

8月【水景花火】

生物種：レッドダイヤモンドディスカス、
レッドマップタイガービジョンディスカス

9月【敬老の日は、エビでご長寿祝い】

生物種：オニテナガエビ、スジエビ

10月【Happy Halloween!】

生物種：トランスルーセントグラスキャットフィッシュ、
ブラックゴースト

11月【枯れ葉に擬態する魚 ～リーフフィッシュ～】

生物種：リーフフィッシュ



ふれあい Topics03

常設展示
ミニ企画展示コーナー

ミニ企画展示コーナーでは、「これ何だろう?」をテーマに、身近な生物の不思議な生態や体型についてご紹介しています。おうちの近くでも見たことあるけれど、それがどんな生物なのか詳しく知らない…そんな身近な生物は、意外に多いと思います。

特に印象に残っているのは、9月の「ハリガネムシ」。

カマキリのお尻からニョロッと出てくる衝撃的な姿。その全貌を明らかにしたかったのですが、展示開始日が迫ってもハリガネムシを採集することができず、河川敷や公園内をしらみ潰しに歩き回りました。期限まで一週間を切ったある日、スタッフがたまたま駐車場で見つけたカマキリから脱出しているハリガネムシを発見し、どうにか間に合いました。

展示をはじめると、意外に大人の男性からの注目度が高く、「懐かしい!こんなのいたよね!」と、ハリガネムシトークで盛り上がることもしばしば。「子どもの頃は何かよく分からなかったけれど、まさかカマキリを宿主にしていた寄生虫だったなんて!」小さな生き物のパワフルな生態に、再びときめいている様に見受けられました。

探すと見つけられず焦っていたのに、展示が終わると次々と見つけられる。そんな行き違いが続いたハラハラの日々でしたが、魅力的でマニアックな生物をクローズアップできた楽しい企画でした。また、生物を採集に出かける機会も多く、相模原に少し詳しくなったことも、貴重な収穫となりました。

(展示飼育員 田村裕子)



実施したテーマと生物 (平成26年11月まで)

3・4月【二度寝をするカエル～ヤマアカガエルの産卵～】

生物種：ヤマアカガエル

5月【石をくわえている魚を見つけたよ!】

生物種：ヨシノボリ

6月【子ども?大人?トウキョウサンショウウオと

メキシコサラマンダー】

生物種：トウキョウサンショウウオ、メキシコサラマンダー

7月【メダカかな?】

生物種：オイカワ、カワムツ、ウグイ、アブラハヤ

8月【ヘビ?ミミズ?コウガイビル】

生物種：コウガイビル

9月【動物?植物?ハリガネムシ】

生物種：ハリガネムシ

10月【自分の家はハンドメイド!～設計士のトビケラ～】

生物種：トビケラの仲間

11月【ドジョウが出てきてこんにちは～♪】

生物種：ドジョウ

キッズサイエンスカフェ
～外来種ってなんだろう?～

開催期間 10/26回 14:00～15:30

「サイエンスカフェ」という言葉を聞いたことはありますか?簡単に言うと、学校の授業や講演会のような「堅苦しい」雰囲気ではなく、科学者や研究者と一般市民の方々が同じテーブルに座り、お茶やお菓子を食べながら気楽に科学や環境問題などを語り合う場、のことです。『科学の話は難しい!』というイメージが強いかもしれ

ませんが、なるべく専門用語を使わず、分かりやすい言葉でお話するのも大きな特徴で、科学者からは最新の情報や動向、さらには苦労話などの本音を伺うことができ、最近いろいろなところで開催されています。もちろん、参加者同士のコミュニケーションも重要で、時には議論になることもあります。会話が盛り上がると和やかな雰囲気になることも楽しい要素です。簡単にサイエンスカフェの概要を説明しましたが、記念すべき「アクアリウムさがみはら」の第1回目のサイエンスカフェのテーマは「外来種って

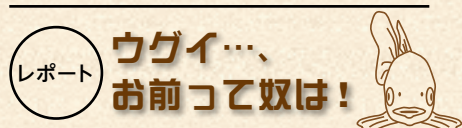
何だろう?」。東京農業大学 野生動物学研究室の安藤元一教授をお招きして、神奈川県や静岡県に定着しているアムールハリネズミ(特定外来生物)の話題を中心に、ペット遺棄問題や外来種問題について会場にいるみんなと一緒に考えました。ちょうど開催中の、特別企画展「トゲトゲ展」で、ペットとして大人気のヨツユビハリネズミを展示していたこともあり、啓蒙活動や身近な環境問題に興味を持つきっかけにして欲しいという願いを込め、このテーマを選びました。小学生を対象にしたイベントでしたが、当日は大

学生や大人の皆様にも多数参加していただきました。会場は終始リラックスした雰囲気でお話が進み、熱心な小学生が大学の教授を質問攻めにする様子は、普段は中々見られない新鮮な光景でした。このようなイベントをきっかけに、科学や身近な環境に興味を持ち、自分たちの後輩が育ってくれるのを切に願い、これからも定期的に開催して情報を発信しますので、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(展示飼育員 嶋津雄一郎)



ふれあい Topics04

おさかなトレーナーになろう！
餌づけ体験

ゴールデンウィークより試験的にはじめ、皆様大変ご好評いただいております餌づけ体験「おさかなトレーナーになろう!」。通常、魚に餌づけをするのは粉末状のエサを水槽の上から撒くことがほとんどですが、こちらではエサを手のひらに少量にぎり、その手を直接水槽につけて、相模川にすむ魚たちとダイレクトにふれあい体験ができるという、画期的な方法に挑戦しています。最初は、魚と人が直接ふれあうことで生体に負荷がかかったり、そもそも人を怖がって魚が近づくにこないなどの問題が考えられましたが、ひとつずつ検討を重ねて解決してきました。この餌づけ体験を楽しむために一番大切なことは、魚とお客様が信頼関係を築いて(に気づいて)いただくことです。いたずら魚をつかんだり、追いかけて回したりすれば、怖がって寄って来なくなります。もちろん、魚にだって心はありますから、嫌なら逃げてしまうのです。



さわられる魚(相手)の立場になって、どのように餌を与えれば魚たちが安心するか、その方法を考えながら挑戦してみてください。また、水槽に入っている魚は季節による変化もありますが、コイやウグイ、ニジマス、オイカワ、アブラハヤ、ワカサギ、アユなどで、魚種によりそれぞれ捕食の仕方も異なりますので、それを感じてみるのもツウの楽しみ方です。その中でも、最も食欲旺盛なウグイたちは、多少のことでは動じないほどに「調教」されており、余程の事(魚体をワシづかみ、水面はたき等)をしない限り、



手の平にワッサワッサと乗り上げてきます。余談ですが、仮に余程の事があってしまった場合には、飼育員がウグイの機嫌直しに、いろいろとなだめているのですが、回復までにちょっと時間がかかります。もっとも食欲が旺盛になる夏から秋にかけてはさらにパワーアップし、水槽のガラス窓がウグイの顔で埋め尽くされるようになりました。餌などもう関係なくて、握手を求める熱狂的なファンのようです。「職員でも、お客様をこれほど一生懸命出迎える事ができるだろうか?」自問自答をしてみると、ウグイには頭が下がる思いで、危うく水槽に頭を突っ込んでしまいそうになります。そんな、いつも元気いっぱいでお客様を出迎えてくれるウグイと、これからも良好な信頼関係をつくって、たくさんふれあってください。

(展示飼育員 今井啓吾)

ふれあい Topics05

毎日開催
ふれあいワゴン「アクアリウムさがみはら」に、
田んぼがあるのをご存知ですか?

「ふれあい田んぼ」というネーミングがついているこの田んぼでは、一般公募で集まった「ふれあい田んぼ探検隊」の小学生や、近隣の幼稚園、保育園の園児さんたちと一緒に、稲を育てました。

6月には田植え、夏には生物観察、そして10月には稲刈りと、毎回どろんこになりながら稲の成長を見守ってきました。そして、11月には待ちに待った収穫祭を実施しました!

しかし…稲穂をとって、モミをとって、ヌカをとって…なかなか食べられません(;ω;)。毎日当たり前のように食べているご飯ですが、食べられるようになるまでには、とっても大変。「ネットが普及して、評論家が増えた!」なんて言われることも多い昨今ですが、やっぱりなんでも、自分たちでやってみることが大切で、しかも楽しいですよ。

農家の方たちや、自然の恵に感謝を込めて…「いただきます!」自分たちで作ったお米の味は、格別でした♪

(体験学習 齊藤麻奈美)

見るだけでなく、ふれあって初めて分かる

水中で暮らす生物たちは、水槽のガラス越しで観察するもの…と、思っていませんか?

でも、本当は触ってみたい!感触確かめたい!固いの? 柔らかいの? などなど、そう思っている人は少なくないと思います。私も、そのうちのひとりです。そこで、一日二回、飼育している生物に、実際に触れていただく! とはじまったのがこの「ふれあいワゴン」です。

サワガニやアカハライモリなどの、身近な水生生物から、相模湾でみられるヤドカリやウニ、ヒトデなど、これまでにワゴンにのった生物の種類や回数は数知れず。

特別企画展の期間中には、通常飼育している生物だけでなく、期間限定の生物も登場しました。世界最大のカブトムシ“ヘラクレスオオカブト”や、手のひらいっぱい巨大ヤスデ、ハリネズミ、全身トゲトゲのイガグリガニ、陸上最大のヤドカリであるヤシガニなど、普段の生活ではまず触ることのない生物たちに直接、ふれていただきました。

「ふれあいワゴン」では、見るだけでなく、ふれあって初めて分かる『ホンモノ』の面白さを直接味わっていただける、ぜひご参加いただきたい飼育員イチオシのイベントです。もちろん、私たちへのご質問も、大歓迎です!

(展示飼育員 竹本淳史)

ふれあい Topics06

ふれあい田んぼ



学校連携

みなさんは、水族館で働いてみたいと思ったことはありませんか?「アクアリウムさがみはら」では、職場体験や学芸員実習、教員研修、フィールドワークなど、学校や教育機関と連携した様々な活動を行っています。ここでは、半年間で実施した職場体験やインターン研修、フィールドワークの様子をご紹介します。

(展示飼育員 真田誠至)



フィールドワーク

市民団体「相模川を愛する会」様と協力して、相模川の河川敷で実施する自然観察会や、アユの放流会など、屋外での実習も積極的に行っています。フィールドワークの成果を、館内で掲出しています。



出張授業

相模原市内の小中学校にお伺いして講義をし、一緒に散策をして生物の調査をしています。



職場体験

中学2年生を中心に、1日飼育員実習を体験できます。生物の世話や水槽の掃除だけでなく、午後にはお客様の前で発表(解説)も行っています。



インターン研修

大学3年生を中心に、2週間程度のインターン研修を実施しています。将来、飼育員を目指す皆さんにとって、密度の濃い貴重な体験ができます。すでに、日本大学、北里大学、昭和音楽大学の学生さんが研修に参加されました。



教員研修

神奈川県では、経験5年目の教員に企業研修を義務づけています。夏休みなどの長期休暇期間を利用し、2名の先生が研修を受講されました。教員研修がきっかけになり出張授業を行ったこともあります。

もし、あなたが実習に来たら・・・ ある日の研修スケジュールを大公開!

□月△日晴れ
8:20 出勤。制服に着替え。
8:30 朝礼。一日の作業を確認して水槽のお掃除。
9:30 開館。急いで掃除道具をお片付け。
9:40 測温。水槽の水温とpHチェック＆餌の準備。
10:30 「おさかなのランチ」(給餌と解説)実施。
11:25 館内放送。緊張しないで!
11:30 「ふれあいワゴン」。お客様にご説明。
12:00 お昼ご飯で、ちょっとほっこり。
13:30 「おさかなのおやつタイム」。お魚ほっこり。
15:00 ガチャガチャの餌を補給。ウグイは今日も元気!
16:30 閉館。魚たちが安心して眠れるように準備。
17:25 終礼。スタッフ全員で今日の出来事を報告。
17:30 今日一日、お疲れさまでした。



「第31回相模川絵画コンテスト」 入選作品展示



「相模川」をテーマに、小学生、中学生が描いた入選作品16点(金賞2点、銀賞4点、佳作10点)を6/3～6/15まで多目的室1にて展示しました。「相模の大風揚げ」、「泳げ鯉のぼり相模川」、「相模原納涼花火大会」など相模川で毎年開催される風景を描いた作品もあり、多くの方が足を止めてご覧になりました。

「花苗の植え付け」



近隣の友愛保育園の園児さんたちと相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはらの敷地内にある、さかな形花壇に、ペゴニア、マリーゴールドの「花苗の植え付け」(6/4)をしました。植え付けをした花の名前を嬉しそうに覚えていたのが印象的でした。

「七夕星空写真展」



日本星景写真協会理事の小沼光良氏が撮影した天文写真を多目的室1にて展示しました。展示期間中(6/17～7/6)は七夕の短冊づくり(自由参加)も同室にて実施し、多くの方が願い事を短冊に書いていました。

地域連携

「出張水槽」

「相模川ふれあい科学館 アクアリウムさがみはら」では出張水槽展示を行っています。「ふれあいミニ水族館」と称して、生き物と直接ふれあえるタッチングコーナー、定期的に行っている特別企画展から選定した生き物などを観察出来る水槽展示をしています。

(営業 押田聖彦)

「内水面まつり」

相模川河川敷にて開催された「内水面まつり」(5/4～5/5)に出張させて頂きました。イモリ、フサガメ、イシガメ、モズガニ、ヤマアカガエルを展示しました。



「やまとおもしろ科学館2014」

「やまとおもしろ科学館2014」(8/2)ではザリガニ、カブトムシのタッチングコーナー、特別企画展「昆虫展」の生き物を展示しました。夏休みということもあり、多くの方で賑わっていましたが、タッチングコーナーのザリガニやカブトムシを前にたじろぐ子供たちの姿が多く見られました。聞いてみると「触り方が分からない」、「一度も触ったことが無い」とのこと。触り方の説明をしながら子供たちに実践してもらいました。最初はビクビクしながら触っていた子供たちも、1匹、2匹と触るにつれて慣れていき、最後は笑顔で両手いっぱい持っている姿が印象的でした。



「SC相模原」

相模原市のJリーグクラブチーム「SC相模原」の試合会場、相模原ギオンスタジアムに出展させて頂きました。2試合(7/27、10/5)に出展させて頂き、ミナミトビハゼを選手に見立てた「がんばれSC相模原」水槽を展示し、SC相模原のサポーターの方々から好評でした。



スタッフ紹介



館長

坂野 浩一
Kouichi Sakano

【好きな言葉】
感謝と奉仕
【好きな生物】
愛犬(クウちゃん、モモちゃん)

相模原へ単身赴任で来て、地域の皆様の優しさと温かさに感動しました。毎朝の習慣となったジョギングでお会いするご近所様と交わす挨拶や、雪かきの時の助けあいなど、忘れかけていたふれあいの大切さを実感しています。

副館長
展示飼育部 部長

今井 啓吾
Keigo Imai

【特技】
採集
【好きな生物】
金魚

採集で大切なことは2つあります。ひとつは道具。例えばロッドなら、魚種や環境に合わせて最適な柔らかさや長さのものを使用しなければ、釣果につながりません。もうひとつは(こちらのほうが大切ですが)気合です。

展示飼育

嶋津 雄一郎
Yuuichirou Shimazu

【特技】
音楽鑑賞
【好きな生物】
昆虫

私は、生まれも育ちも相模原。オープン2年目(小学校4年生)の時に「ふれあい科学館」へ社会科見学で来て「ここで働きたい」と決心して実現しました。多くの人に身近な自然の大切さをお伝えしてまいります。

展示飼育

真田 誠至
Seiji Sanada

【特技】
川遊び
【好きな生物】
ベントス(川底に棲む生物)

川は身近な存在ですが、まだまだ知られていない魅力がたくさんあります。生物はもちろんですが、その周りの自然環境や構造物などなど、面白いものが満載です。川マニアの私と一緒に、「川の魅力探検」に行きましょう！

展示飼育

竹本 淳史
Atsushi Takemoto

【特技】
ライト探し
【好きな生物】
海水魚

最近、相模湾での採集にハマっています。大潮になると、体がムズムズしはじめるので、「狼男って、こんな心境なのかなあ」と思ったりします。採集の魅力はいろいろですが、一番は「偶然の出会い」です。一緒に行きませんか？

展示飼育

田村 裕子
Hiroko Tamura

【特技】
お菓子を発見すること
【好きな生物】
カワイければすべて

飼育員って、プライベートでも生物を飼っている人が多いんです。そんな私も、ツツントゲトゲした生物と暮らしています♪職場でも家でも、愛にあふれる毎日で幸せ♡

体験学習

齊藤 麻奈美
Manami Saitou

【特技】
らくがき！
【好きな生物】
マリモ

「ものづくりワークショップ」を担当しています。お客様に喜んでいただけて、季節感のあるプログラムを考えるのは大変ですが、完成した作品を笑顔で見せてくれるお子様とのふれあいが励みになっています！

広報

挾間 雅行
Masayuki Hazama

【特技】
写真撮影
【好きな生物】
地球外生物(の発見：天体観測)

よく「一眼レフだと綺麗な写真が撮れますね」という感想を伺いますが、最近のカメラはよくできているので、そんなことはありません。一眼レフだといろんな撮り方が可能！が正解です。いろいろな撮り方、勉強中です。

営業

押田 聖彦
Masahiko Oshida

【特技】
映画鑑賞
【好きな生物】
愛息子(1歳)

ミュージアムショップを取り仕切っています。初めての経験で試行錯誤の連続ですが、お客様に喜んでいただける商品ラインナップを心がけています。置いて欲しい商品やオススメ商品を見つけたら、ご紹介ください。

設備

関口 豊一
Toyokazu Sekiguchi

【特技】
お菓子を配ること
【好きな生物】
愛妻

ギタリストです。楽器を演奏することと、快適にお過ごしいただく施設環境を整えることはとても似ています。どちらも相手の気持ちが分かんなければ一流とは言えません。何でもお気づきになったら、お知らせください。

管理

前川 敬子
Keiko Maekawa

【特技】
昼食選び
【好きな生物】
園芸コーナー

園芸部長を兼任しています。お花を育てるのも、愛情をどれだけ注ぐかが大事です。植物も動物も同じですね。私がコーディネートした授乳室は、愛情に満ちあふれていますのでぜひご利用ください。

受付

小山田 幸佑
Yukihiro Oyamada

【特技】
変身ポーズ
【好きな生物】
バツタ(映画ライダーのモビルになったから)

最初にお客様とお会いするのは私です。ですので、いつでも笑顔を忘れず、元気よくご挨拶するようにしています。よい子のキミも、ライダーに会いたくなったら、まずはボクと一緒に変身ポーズだ！

運営会社のご紹介

株式会社江ノ島マリンコーポレーション
代表取締役社長 堀 一久

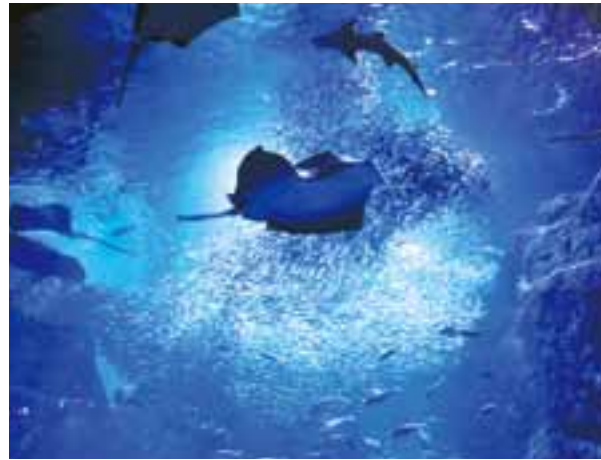
平成26年1月より、「相模川ふれあい科学館 アクリウムさがみはら」の運営は、株式会社江ノ島マリンコーポレーションが、指定管理者として受諾させていただきます。

弊社は、平成16年より「新江ノ島水族館」ならびに「世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ」における

水族館運営事業にも、従事いたしております。

全ての施設の運営ノウハウを結集し、相模原市民の皆様はもとより、多くのお客様のご期待に添える施設となれますよう、スタッフ一同尽力してまいりますので、ご支援をお願い申し上げます。

新江ノ島水族館



『新江ノ島水族館』は相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションを最大限に活用した水族館で、“わくわくドキドキ冒険水族館”をコンセプトに掲げています。

いつも新しい「発見」に出会える場として、来館するたびに海や生命にひそむ多くの不思議を「発見」し、海遊びを発展させた体験プログラムから「驚きや感動」を感じられるように、エデュテインメント性の高いコンテンツとプログラムを開発・提供してまいります。



〒251-0035 神奈川県藤沢市片瀬海岸 2-19-1
TEL：0466-29-9960
<http://enosui.com/>

世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ



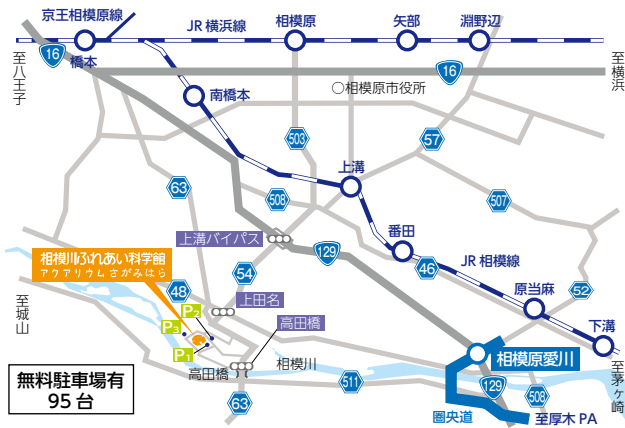
『世界淡水魚園水族館 アクア・トトぎふ』は、環境学習の実践の場として、また、地域交流の拠点となることを目的とし、岐阜県によって整備されました。日本や世界の淡水域に生息する生物をご紹介します。自然や河川環境を楽しく学び、考える場とするため、展示は長良川の源流から始まって世界の川へと広がり、魚類を中心に爬虫類や両生類、鳥類など水辺の生き物たちのくらす環境が緻密に再現されています。



〒501-6021 岐阜県各務原市川島笠田町 1453
TEL：0586-89-8200
<http://aquatotto.com/>

発行：相模川ふれあい科学館 アクリウムさがみはら
発行日：平成27年3月

■ アクセス Access



電車バス利用 JR横浜線 相模原駅南口より 神奈川中央交通バス「水郷田名」行き 「ふれあい科学館前」下車 徒歩0分

車をご利用	国道16号線	相模原駅入口	上溝バイパス	上溝	県道54号	相模川ふれあい科学館
	図央道 相模原愛川IC		国道129号	上溝バイパス	県道54号	

■ 入館料金 (税込)

区 分	個 人	年間/パスポート	団体 (20名以上)
大人 (高校生以上)	300円	900円	240円
小人 (小・中学生)	100円	300円	80円
65歳以上	150円	450円	120円
幼児 (小学校就学前) ※ 障害者と同伴者1名 ※ ひとり親家族等 ※	無料	無料	無料

※については、入館時に証明できるものが必要です。

◆年間パスポートの有効期限は、発行日から1年間となります。

お得な年間パスポート

年間パスポートなら3回分の料金で
1年間何回でもご入場いただけます。



■ 開館時間 9:30 ~ 16:30

イベント開催等により営業時間変更の場合あり

■ 休 館 日 月曜日 (月曜日が祝日等の場合は開館)

ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション

【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市 事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館 事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1 動物取扱業の種別：展示、動物取扱業の登録番号：生衛 第204-00012号 登録年月日：平成26年3月10日 登録の有効期限の末日：平成31年3月9日 動物取扱責任者の氏名：嶋津 雄一郎



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110 FAX.042-761-2665
<http://sagamigawa-fureai.com/>

相模川ふれあい科学館

検索